

「福島国語の会」という自主的な勉強会がある。小学校部会、中学校部会、そして高校部会がある。コロナ禍のため中断していたが、10月からオンラインを使って再開された。どの部会も月に1回である。この会のよいところの一つは、学生の皆さんが参加している点である。皆さん、就活のようなきちんとした服装で会に臨み、運営を補助し、質問もしている。こんないい経験は、なかなかできない。毎回、緊張はするだろうが、恵まれている。

高校部会も12月から再開された。発表者は、M先生だった。以前から存じ上げている先生だった。数年前にM先生の実践発表を聞き、指導助言者という立場で、私なりのアドバイスを送った。今回の発表は、そのときと同様の研究テーマだった。M先生は、ずっと継続して研究を積み重ねていたのである。

M先生の発表が終わり、学生さんが質問をしていった。なかなか的を射た質問である。感心させられる。M先生本人にチャットでコメントを送った。便利な機能である。程なくして、発言を促されたので次のような話をした。

「M先生、お久しぶりです。先生は、発表も質問に答えるときも生き生きと楽しそうに話しますよね。何年か前にも郡山で先生の発表を聞かせていただきました。今でも覚えています。あの頃よりも2段階も3段階もアップした洗練された発表でした。きっと生徒たちは、生き生きと活動していると思います。ぜひその姿を授業で見たいと思いました。ありがとうございました」

私が、こんなことをいうのは珍しい。何だかうれしかったのである。高校の国語の先生としての専門性がある。こんな授業をしたいという熱い思いがある。そして、実際に行動している。パワーポイントのスライドが見やすい。説明も簡潔でポイントを押さえているためわかりやすい。

本当は、質問したいことがあった。それを学生さんが質問してくれた。まるで、その質問を予想していたかのように、M先生の答えが、これまたすばらしかった。こちらの要求水準にこたえる納得させられる内容だった。

Zoomから退室した後も、何だか気分がよかった。高校にも勤務していたせいも、高校の先生方に期待したくなる場所がある。一番は、教科の専門性である。M先生には、それがある。「さすがは高校の先生」と思わせてほしいのである。

M先生が一つのことを研究しているからといって、それしかできないわけではない。一つのことに取り組んでいると、研究分野以外のこともレベルが上がるし、できるようになる。体育を専門に研究している小学校の先生で、素晴らしい国語の授業をする先生がいる。同じようなことだろう。

M先生の発表を聞いて、ふつふつとやる気が出てきた。自分もやらなければという思いをもつことができた。若手に触発されたということか。このような機会を設定してくださる運営の方々とM先生に感謝したい。